

# 「文学国語」教科書題材紹介

## 文学の扉

### 「フィクション」の力（神林長平） 1,800字

随想

「フィクション」（＝物語）を読むことで鍛えられる想像力は、現実を知る力になると筆者は語る。フィクションが持つ力について考察した随想的文章で、「文学国語」の学習導入に最適な冒頭教材。

### 山月記（中島敦） 6,100字

定番

高校国語教科書の定番として読み継がれてきた中島敦の名作を入門教材として配置。比較読解用文章には、典拠である『人虎伝』から『山月記』に関わる箇所を原文（＝漢文）で掲載し、作品理解を深める構成。

## 第一章

### 鋼セット（角田光代） 7,200字

インタビュー動画

大学入学を機にひとり暮らしをするようになった「私」。そんな「私」に「母」がプレゼントしてくれたのは鋼セットだった。（大学入学）という節目に立つ生徒自身の未来とも重ねて読める作品。

### もういいよ（東直子） 7,100字

インタビュー動画

高校生の芽以は父親とのふたり暮らし。毎日芽以の弁当を作ってくれる父親に感謝している芽以だったが、父親がブログで芽以への弁当を公開していたことがクラスメートに知られてしまう。高校生の身近な感覚に寄り添った作品。

### ナイン（井上ひさし） 5,700字

準定番

新道少年野球団で活躍した九人の少年たち。その後の姿を少年野球団のエースだった英夫くんを軸に描き出す。仲間との絆や変わらない思いが高校生の心に響く、教室での人気も高い一編。

### 三月の風（阿部昭） 6,200字

心の中で父親は高校生の息子に向かってつぶやく――「馬鹿者め。やっぱりこのざまだ」。受験をめぐる親子の対立と、息子に対する父親の不器用な愛情を描く。高校生にとっても身近な題材として読める作品。

### 山椒魚（井伏鱒二） 4,800字

準定番

岩屋に閉じ込められ、外へ出られなくなった山椒魚は、蛙をも巻き込んでそこに留めてしまう。人間社会を思わせる寓意がにじむ、井伏鱒二の代表的短編。

### 水仙（太宰治） 11,400字

主人公の「僕」は、菊池寛の小説『忠直卿行状記』に新たな解釈を試みる。「新戯作派（無頼派）」を代表する太宰治の隠れた名作。比較読解用文章として、菊池寛『忠直卿行状記』の関連箇所も掲載。

### こころ（夏目漱石） 27,600字

定番

作品全体の構造を意識した読解を促すため、「上 先生と私」や小説末尾も含めて掲載。さらに、比較読解用文章として『現代日本の開化』を併載し、漱石の時代認識を手がかりに、『こころ』の読みを深化させる構成。

### 物語のおわり（湊かなえ） 5,000字

旅先で受け取った短編小説。しかし、その小説には結末が描かれていなかった。生徒自身が結末を創作することで、作品理解を深めるとともに、「文学国語」における「書くこと」の学習へもつなげることができる教材。

### 源氏物語

インタビュー動画 古典

『源氏物語』の原文（＝古文）とともに、与謝野晶子・谷崎潤一郎・角田光代による現代語訳を掲載。訳者による表現の違いを味わう。比較読解用文章の翻案作品『窈窕源氏物語』では、現代語訳とは異なるアプローチにも触れられる。

### 文学のふるさと（坂口安吾） 4,000字

評論

「新戯作派（無頼派）」の代表的作家は「文学」をどのようにとらえていたのか。第一章の「文学評論」では、坂口安吾・平野啓一郎という二人の小説家による文学評論を掲載し、創作者という内側の視点から文学の本質に迫る。

### 小説の読み方（平野啓一郎） 3,900字

インタビュー動画 評論

小説を読む際のアプローチを示した評論文。動物行動学の考え方を小説の読解法にも援用した解説がわかりやすく、日頃の読書にも新たな視点をもたらししてくれる。

## 第二章

### ひよこの眼（山田詠美） 9,600字

準定番

その転校生の目を見た時、なぜか懐かしくせつない感情に包まれた。少女の視点から現代社会の問題に切り込み、生徒と同世代の主人公を通して、高校生の中に寄り添う物語。

### はね（小山田浩子） 9,800字

中学生の「僕」は、従兄の結婚相手であるホナミさんとともに、ヤゴの羽化を見届ける。各国で翻訳されるなど世界的にも高い評価を受ける小山田浩子による日常のひとこまを静かに描き出した作品。

### 赤い繭（安部公房） 2,600字

準定番

帰る家がない「おれ」は、しだいに自分がほどこけて大きな繭になる。「シュールレアリスム（超現実主義）」の作家が描く不思議な物語。読む人によって解釈が分かれる本作は、文学の読みが一つではないことを実感できる。

### 野火（大岡昇平） 11,100字

太平洋戦争の前線、フィリピンを舞台に、日本兵が直面する生と死の極限状況を描く。過酷な環境の中で、理性を保とうとする心と無意識の衝動がぶつかり合う人間心理を描いた戦争小説。

### 檸檬（梶井基次郎） 4,900字

定番

えたいの知れない不吉な塊に追われるように、みずばらしくて美しいものにひかれる「私」。美に対する鋭敏な感覚で描かれた作品。比較読解用文章として、同テーマの詩「秘やかな楽しみ」と習作『瀬山の話』を掲載。

### 笑われた子（横光利一） 2,900字

周囲の人々によって自身の人生が決められてしまう主人公「吉（きち）」の物語。志賀直哉『清兵衛と瓢箪』との類似性も指摘される作品で、『清兵衛と瓢箪』との比較読解を促す設問も掲載。

### 舞姫（森鷗外） 16,000字

定番

近代国家の建設が急がれた明治期の日本で、その担い手として期待された太田豊太郎。立身出世とエリスへの恋のはざまで揺れる豊太郎の「弱くふびんなる心」が引き起こす苦しみを描いた不朽の名作。

### 錠の門前（フランツ・カフカ） 1,300字

いつも開いている「錠の門」に入ることが許されない「男」。2,000字にも満たない本作は、読者の多義的な解釈を許容する。『赤い繭』とともに文学作品における解釈の多様性を考察できる作品。

### 藤野先生（魯迅） 4,700字

準定番

仙台医学専門学校で教える請うた藤野野九郎との思い出を綴った自伝的短編。当時の社会状況も踏まえた読解が求められる。比較読解用文章「呐喊」自序とあわせて読むことで、「幻灯事件」が魯迅に与えた影響も考察することができる。

### 父帰る（菊池寛） 7,400字

二十年前に家族を捨てた父親が突然帰ってきた。「新思潮派」を代表する菊池寛による初期の代表的戯曲で、ト書きや台詞など、小説とは異なる戯曲ならではの表現手法に目を向けることができる作品。

### 恋の物語

古典

人の恋を描いた文学は古くから存在し、「恋」は文学の普遍的テーマとなってきた。本単元では、中古・中世・近世からそれぞれ一作品ずつ古典文学を取り上げ、近現代の恋愛小説との類似点や相違点を考察する課題を設置。

### 演技する「私」（安藤宏） 3,600字

評論

日本文学における「私」とは、どのような存在なのか。川端康成『雪国』や島崎藤村『春』など、日本文学を代表する作品を例に取りながら、「私」という存在のあり方を読み解いた文学評論。

### 読者にできる仕事（石原千秋） 4,400字

評論

小説を読んでいるとき、「読者」はどのような機能を果たしているのか。第二章の「文学評論」では、安藤宏・石原千秋という二人の日本文学研究者による文学評論を掲載し、研究者という外側の視点から文学の本質に迫る。